

近畿病院図書室協議会第117回研修会

研修部

日 時：2008年6月28日(土) 9:30~17:00
場 所：株式会社メディカ出版 1階 セミナー室
テーマ：電子ジャーナル導入検討とI.L.L.進化
論 (あい・える・えるしんかろん)

プログラム：

1. 電子ジャーナルの利用統計を読む
大阪大学附属図書館
吹田地区図書館サービス課長 小川晋平氏
2. Journals Consult ジャーナルズ・コンサル
ト製品概要
エルゼビアジャパン株式会社
丸善株式会社
3. ランチタイムセッション&賛助会員による
プロダクトレビュー
 - (1) 科学技術・医学薬学文献データベース
JDream IIのご案内
独立行政法人 科学技術振興機構
情報提供部 西日本支店長 齋藤仁夫氏
 - (2) USACO CORPORATION 会社概要とサー
ビスのご紹介
ユサコ株式会社 ライブラリー&エージェント
事業部 西日本営業所 平本賢助氏
 - (3)-1 豊富なコンテンツをもつ多機能全文
データベース：ProQuestのご紹介
株式会社サンメディア e-port 長谷川智史氏
 - (3)-2 先進の国内電子ジャーナル：
PierOnline (ピアオンライン)のご紹介
株式会社サンメディア e-port 馬淵沙織氏
 - (4) 医中誌Webの現況
特定非営利活動法人医学中央雑誌刊行会
電子出版課 春名理史氏
4. 出版における過去・現在・未来

株式会社メディカ出版

キャリアソリューション eラーニング課

林 亨氏

5. 国立情報学研究所 (NII) の事業について
～学術コンテンツ事業を中心に～
NII学術基盤推進部学術コンテンツ課
図書館連携チーム係長 平田義郎氏
6. グループワークによる事例検討
ミニミニフォーラム「I.L.L.進化論」
—依頼する一方の「文献取り寄せ業務」から
ILL：図書館間相互利用へと進化しよう！—
参加者数：29名 (会員・賛助会員28名、会員外1名)

今回は当協議会の一泊研修会としては初の試みとして、土曜日に開催した。

また、昼食時間を利用して、日頃当協議会の活動にご協力いただいている賛助会員の皆さまからプロダクトレビューとして、新製品、最新情報などを披露していただいた。

主要なテーマは、「電子ジャーナル」と「ILL」としたが、この二つをつなぐ議論を展開するため、最後にグループワークを行った。

まず、第1席のご講演では電子ジャーナルの歴史に始まり、利用統計まで、具体的な例を示していただいた。利用統計については個々の図書館で取っているとは思いますが、数値だけでは利用実態を表わしているとは限らないこと、電子ジャーナルではさらにコンピュータ上での集計となるので、より注意を要することなど、また、どうすれば有効活用ができるかという病院図書館の将来につながるお話であった。大学図書館を巡る厳しい状況の指摘もあったが、最後は将

来の展望について的一端もお話いただき、大学図書館との連携がILLを行う上で重要と考えているわれわれにとって、心強いエールを頂いた気分になった。

第2席は、病院向けの電子ジャーナルサービスについての説明で、徐々に病院図書館でも価格面などで、利用しやすい形態に変わりつつあることを知ることができた。

第3席は、今回会場を提供していただいた、株式会社メディカ出版の行っている事業の紹介であった。看護師・助産師への教育に力をいれておられ、独自のセミナー開催やwebでの情報配信だけでなく、学会と連動しての教育活動など、興味深く聞くことができた。

第4席は、国立情報学研究所（NII）から講師を招聘した。NACSISは病院図書館員にとって必須アイテムとなっている。しかし、目録データの提出までには至っていない図書館が大半である。利用方法についても、習熟しているとは言い難い担当者も多くいるのが現状ではないだろうか。今回はこういった状況を踏まえて、新

しいツールを紹介していただき、また、目録データの提出方法についても、提出資格など、細かく説明していただいた。これを機会にNACSISに参加する機関が増えれば何よりである。当協議会で運用しているKinki WebCatの充実を図ることを、会員一丸となって努めていくことは当協議会の活動として当然であるが、同時に日常使う機会が多いNACSISをより知るためには、新たな一歩を踏み出す必要もでてくるのではないだろうか。今回はそのための情報収集の場となったことと思う。

最後に参加者全員でグループワークを行った。各グループに振り分けられたテーマに従って議論を重ね、発表を行った。第5席でご講演していただいた、国立情報学術研究所の平田義郎氏よりご講評をいただいた。

週日に開催している研修会とは多少参加者の顔ぶれが違っていたので、有意義な交流の時間を持つことができた。

（文責：林 伴子／社会保険神戸中央病院）